

会計クラウド 教員負担軽減

九州FG子会社開発 高校など導入進む

九州フィナンシャルグループ子会社の九州デジタルソリューションズ（熊本市）が開発した学校徴収金用の会計クラウドシステムの導入が、熊本県内外の高校などで進んでいる。金融グループの強みを生かして、教材費や授業料といった徴収金業務を大幅に効率化できるのが売り。教員の事務負担を軽減する働き方改革を後押ししている。

システムの特長は、口座振替やインターネットバンキングを活用して、保護者からの集金、事業者への支払い、会計処理をインターネット上のクラウドで一元管理できる点だ。

熊本県教育委員会は20

23年4月以降、徴収金の管理業務を教員から事務職員へ移行する機会に合わせて、高校や特別支援学校など県立の全68校にシステムを導入した。

以前は、徴収金の入金を紙や表計算ソフトに入力し

て確認する必要があった。現金での徴収や銀行窓口で支払う手間もあり、教員の負担が大きかった。作業の進め方もそれぞれで異なるため、引き継ぎにも苦労していたという。

システム導入で、こうした手作業は大幅に減り、キヤッシュレス化も実現した。

熊本工高では、これまで40人超の教員が担ってきた徴収金業務を事務職員3人でこなすようになった。古賀寿夫主幹教諭は「以前は少なくとも年間100時間を徴収に費やしていた。浮いた時間を、生徒の指導や教材研究に充てられてありがたい」と喜ぶ。特に工業系高校では、必要な教材数が多く、会計処理の負担が大きかったという。

今年4月以降、福岡県や高知県の県立学校もシステムを導入した。九州デジタルソリューションズは「インターネットバンキングなど銀行と連携できることが強み。現場の声を聞いて改良を重ねながら、3年以内に新たに10県以上での導入を目指す」としている。

（長濱星悟）



九州デジタルソリューションズが開発した学校会計クラウドで会計処理をする熊本工高の事務職員＝19日、熊本市中央区